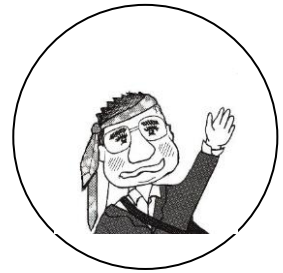


大魔王のお笑い神話



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

「孫悟空が生まれた国」⑧

オンボロ飛行機だったが、無事桂林空港に着陸した。キャビン・アテンダントの林さんと李さんが笑顔で見送ってくれた。ところで、ジーン君もわが輩も事前にホテルを予約していなかった。それが自由旅行というものだ。

さあ、ここでジーン君ともお別れだ、と思ったが、わが輩に「今晚どこに泊まろうか？」などと相談してくる。その人懐っこさにわが輩の心はぐらついてしまった。

広州空港で会った香港三人組（銀行員）から、ホテル桂林飯店までリムジンがでていているという情報を得て、そこに泊まることにした。

ドーミトリー（相部屋）なら一人2圓40角、二人部屋なら14圓（一人7圓）。疲れているので一人部屋を考えていた。

さて、チェック・インのとき部屋は別々かと思いきや、ジーン君がまたまたすり寄ってきた。

「Mr. 大魔王、二人部屋シェアなら7圓（¥945）だよ。安いよ」

一瞬迷ったが、またもやわが輩はハンサム男の誘惑にのってしまった。

夕食は町の食堂へ出かけた。夜も遅いので、スープ麺にした。（二人で6圓）

5月2（日）翌朝8時過ぎに起床。まず中国民航へ行き復路の桂林/広州の予約を取った。次に漓江下りの切符を求め船着き場に行った。外国人は40圓だと言われた。

「Mr. 大魔王、それは高い。中国人の振りをしてもう一度トライすべきだ」

桂林飯店で買うと40圓20角、但し飯店/船着き場までの送迎バス付である。決して高くはない。ところが、ジーン君の情報だともっと安く手に入るはずだと譲らない。

（ああ、うんざり）

それで、中国民航前の観光案内所を探しだし、25圓の切符を手に入れた。

「Mr. 大魔王、ボクの言った通りだろう」

実は、この料金での購入には国際学生証が必要であった。ところが販売員は、わが輩を留学生だと誤認して提示を求めなかったのである。

余った時間で独秀峰に上り町中を遊歩したが、正直に言うならジーン君と一緒に歩きたくなかった。なぜなら、彼が一步歩くのに対して、わが輩は二歩進まなければならなかったからである。常にわが輩は小走り状態であった。（脚の長さには負けた）

夕食は羊城飯店（大衆食堂）で食べた。ここでもジーン君は女店員にもてた。純朴な女店員が彼の周りを囲んだ。ところがジーン君は、お箸の代わりにスプーンを要求、あれこれと文句が多い。次第に女店員は、わが輩の側に近寄り出したのである。

桂林観光といえば、漓江下りである。桂林から陽朔（ヤンシャオ）まで 83 キロの川下りである。午前 8 時に船着き場に集合、9 時に出航し、午後 2 時 30 分に陽朔に着いた。船着き場で香港三人組と再会した。

漓江下りは、優美というのか、悠久の流れというのか、川面を絹でやさしく撫でるようにゆっくりとながれていった。まさに山水画の幽玄の世界のようであった。

昼食は船内の食堂で食べた。中国人たちはほろ酔い気分で漓江下りを満喫していた。わが輩は、今でもあのピータン（アヒルの発酵卵）の味が忘れられない。

さて陽朔で下船後、連絡バスで桂林に帰るコース（約 1 時間 30 分）になっていた。村をぶらぶらするのは良いが、出発時間が迫ってきてもジーン君は「心配ない」と一向に急がなかった。それでついわれ等は乗り遅れてしまった。あの長い脚でも歩いて帰れない。

ローカル・バスがあるというので、それで帰ることにした。村人がわれ先にと乗車扉にむかって殺到し大混乱であった。インドで見慣れた光景であったが、何かしら違ったように思えた。

ジーン君、あんたのせいだよ、と言いたかったが、これはこれで面白い体験であった。2 時間後（バス代 70 角）に桂林に戻ることができた。

ご存じのように、世界四大文明は河の流域で生まれた。

- ① メソポタミア文明（チグリス・ユーフラテス河） ② エジプト文明（ナイル河）
- ③ インダス文明（インダス河） ④ 中国文明（黄河）

まず人間に必要なのは飲料水である。それに水がなければ田畑もできない。集団になると生活必需品が増える。そのために交易が発展する。これらの条件を満たすのが「川」である。

ところで「河」の効用はこれらだけではない。インドでは「沐浴」というものがある。沐浴は罪を洗い浄める行為で、水浴びとはちがう。

沐浴祭は、四ヶ所の聖地（ハリドワール、アッラーハーバード、ウッジャイン、ナーシク）で、三年毎に行われる。4 x 3 の 12 年目の大沐浴祭をマハー・クンプ・メーラーという。今年 4 月 16 日にガンジス河の聖地ハリドワールで行われた。

沐浴で、「コロナウイルスなんてものは、わが罪とともに洗い流してやる！」と全裸のサードゥー（苦行者）たちは勇んで聖河に飛び込んだ。それに続いて、信徒たちもザブゥーンとなだれ込んだ。その数 350 万人。そのバクティ信仰（絶対帰依）の熱気たるや苛烈。正に噴出するシャクティ（性力）である。信じる力、生き抜く力だ。

しかしながら信心不足か、はたまた不完全沐浴のせいかな、苦行者 30 人、信徒 1,700 人が感染した。

それでもサードゥーたちよ、恐れることなかれ。心の罪は消えた。ただ微細なウイルスという「物」が残っただけである。「物」は、いつかは消滅する。その未来消滅までを支えるのが「こころ」である。